



Chateau la Baronne

ラングドック地方
シャトー・ラ・バロンヌ

コルビエールの地で、あのブルノ・デュシェンも醸造に参加
新たな品種が広がるJean×Brunoのプロジェクト
高樹齢のブドウと素晴らしいテロワールが織りなす複雑味



Bruno Duchenと聞けばグルナッシュのスペシャリスト♪

お客様で彼のワインはリリースと共に瞬時で無くなるレアワインとなっており、沢山のファンが入りません。その彼の造るワインを「もっと多くの方に飲んで貰いたい！又、彼の他の品種のスタイルを見てみたい！」との思いで、2008年立ち上がったCh La Baronneとのコラボプロジェクト。

Jean Ligneresは、南仏Languedocに90haもの畑を持つCh La Baronneのオーナー。本職は医者で同じく医者である父も兄もワイン好き。今から50年以上前に父がワイナリーを購入したのです。そのワイナリーを2代目のJeanが引き継ぎ、本業よりもワイン造りが楽しくなり、美味しいワインをつくる為、2002年から全ての畑を100%無農薬にしました。そしてエコセルの正式な認定は2007年に取得しました。

平均樹齢45年、1haの平均生産量は3000本と生産量を少なく拘った造りを行っております。その敷地の中には1892年に植樹した、ウルトラVVのカリニャン、フィロキセラすら寄せ付けなかったブドウが存在しております。そのカリニャンを見た時に「こういうブドウでワインを造ってみたい！」と思うのはとても自然な位に素晴らしい畑です。Jeanが守っている畑で育てたカリニャンを友人のBrunoに栽培・醸造責任者として、醸造してもらったプロジェクトです。

Brunoはグルナッシュに魔法をかけ、本当に美味しい果実香を秘めた、素晴らしいワインに変えます。それを前からカリニャンでも飲んでみたかったです。カリニャンは品種として軽視されがちな量産品種です。1962年にフランスから独立したアルジェリアの消費ワインの穴埋めの為に沢山植えられ、そして消費が少なくなると軽視され始めました。200hl/haも取れると言う驚異的な品種です。しかし私個人の考え方では、どんなブドウも収量を抑え、丁寧に醸造すれば、そのブドウの個性を出す事が出来る。ましてや樹齢の古いブドウの味わいは格別です。そういう意味でもこの品種を是非Brunoに醸造して貰いたかったのです。彼は完全に期待を裏切りませんでした。恐ろしい位にパーフェクトな出来栄です。日常気軽に飲むカジュアルな赤ワイン。彼の醸造方法はご存知カルボニックというブドウ本来の香を前面に出す、ブドウに優しい方法です。しかしこの方法は温度やブドウの形状等々、色んな要因が必要で、カリニャンはカルボニック法で醸造するのが難しいと言われていた品種の1つです。

そして、BrunoはJeanの畑の他の品種を醸すことも志願し、実現しているシリーズです。ウルトラ自然な味わいで皆様に喜んでいただけること間違いなしです。ぜひご賞味ください。

(新井順子)

[43110] Carignan Sans Soufre Etiquette Bleue カリニャン サンスフル エチケット ブルー 18

呼称	VdF ヴァン・ド・フランス		
参考小売	¥2,400 ★		
規格/タイプ	750ml×12 / 赤・ミディアム		
栽培/認証	ビオロジック/ビュローヴェリタス、エコセル		
テロワール	土壌	標高・向き	面積・収量
	粘土石灰	90m・南	2ha・26hl/ha
品種(収穫/樹齢)	カリニャン100%(手摘み/平均60年)		
醸造	酵母	自生酵母	
	発酵	9月26日収穫/除梗後、40hlのトロンコニック樽で20日間醸し[25℃]、プレス、そのまま15日間発酵	
	熟成	ステンレスタンクで7ヶ月間シュールリー熟成 無濾過・無清澄/瓶詰め:2019年5月27日	
	SO ₂	無添加 トータル:6mg/L未満	
アルコール度	14%		
特徴	09年に新井順子と出会い誕生したキュヴェでブルーノとジャンの三人で古いカリニャンのパーセルを選び、収穫時にブルーノが来て醸造を手掛けています。トロンコニック樽で醸しプレス、発酵しステンレスタンクで7ヶ月間熟成しSO ₂ 無添加で瓶詰めしました。憂いを帯びたルビー色、カシスやブルーベリーのような香り、丸く落ち着いた滑らかな口あたり、バランスのとれた味わいです。		

4月
新着



酸化防止剤無添加の商品はお取り扱いにご注意ください(基本的に15度以下の保存をお願いします)

